

# JAPAN PRIZE NEWS

財団法人 国際科学技術財団

THE SCIENCE AND TECHNOLOGY  
FOUNDATION OF JAPAN (JSTF)

〒105 東京都港区虎ノ門4丁目3番20号  
神谷町森ビル4階  
電話03(3432)5951(代)



No. 14  
1995年8月

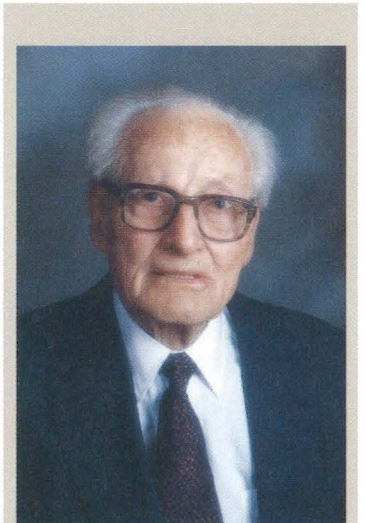
## 1995年(第11回)日本国際賞は米国の2博士に 材料プロセス技術、環境保全重視の農林水産科学・技術分野で



ニック・ホロニアック・ジュニア博士

財団法人 国際科学技術財団が、世界の科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人々を顕彰する1995年(第11回)日本国際賞の授賞式が4月27日(木)、東京国立劇場で行われました。

今年度の授賞対象分野は、材料プロセス技術と環境保全重視の農林水産科学・技術の2分野で、世界各国の学者、研究者からそれぞれ212件、126件、合計338件の推薦を受け、この中から米国の2博士が受賞者に選ばれました。材料プロセス技術分野では、化合物半導体の物理的原理の洞察及びプロセス技術に基づく創造的業績を通しての発光ダイオード及びレーザー等、オプトエレクトロニクスにおける基礎研究並びに実用化に対する顕著な貢献により、イリノイ大学教授のニック・ホロニアック・ジュニア博士(67歳)が、また、環境保全重視の農林水産科学・技術分野では、不妊虫放飼等による害虫総合防除技術の開発に関する先駆的業績により、元米国農務省農業研究部昆虫研究部長のエドワード・フレッド・ニプリング博士(86歳)が受賞しました。



エドワード・フレッド・ニプリング博士



## JAPAN PRIZE

### 天皇皇后両陛下のご臨席を賜り 厳かに授賞式を挙行

授賞式は本年も、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、参議院議長、最高裁判所長官、文部大臣、科学技術庁長官ら官界代表のほか、在日外国大使・公使ならびに財界、著名な学者・研究者、言論界代表等約700名が出席し、厳かに行われました。

桐朋学園オーケストラ（指揮 円光寺 雅彦）の演奏する「日本国際賞式典序曲—Overture Japan」（作曲 三木 稔）で幕開けとなり、近藤次郎財団理事長兼日本国際賞審査委員長の開会の挨拶、審査結果報告および受賞者の紹介、審査委員会各分野部会長による贈賞理由の説明に続き、2博士にそれぞれ日本国際賞の賞状、賞牌、および賞金5,000万円が伊藤正己財団会長より贈られました。

受賞したホロニアック博士は「この輝かしい賞は、私、家内、また恩師であり偉大な科学者であるジョン・バーディーン博士をはじめ、イリノイ大学や教え子たち、そして世界中で半導体を研究している多数の方々に対する評価であると考えています。私の仕事が薄暗い片隅にはのかな光を投ずることができたかと思っております」と述べました。

また、ニプリング博士は「環境問題に悪影響を与えず、経済的にも優れた害虫問題を解決するために今後成すべきことは数多くあります。世界の人口が増加している今日、我々は減りつつある農地で食料の生産をしていかなければならないのです。害虫による被害を防ぐことで、この問題の解決に大きく貢献することができると思います」と述べました。



天皇皇后両陛下の祝福を受ける両博士



伊藤会長から賞を受けるホロニアック博士(写真左)とニプリング博士(写真右)

## 日本国際賞週間

(財)国際科学技術財団は、授賞式が行われる前後の一週間を「日本国際賞週間」と定め、この間に、内閣総理大臣表敬訪問、受賞者合同記者会見や東京で記念講演会を開催するなど各種の行事を行いました。



村山内閣総理大臣表敬訪問（4月24日）



日本プレスセンターにおける受賞者合同記者会見(4月25日)



米国大使主催歓迎レセプション（4月25日）



# JAPAN PRIZE

## 天皇陛下のおことば



この度の日本国際賞の授賞式に当たり、材料プロセス技術分野におけるホロニアック博士、環境保全重視の農林水産科学・技術分野におけるニプリング博士の受賞を心からお祝いいたします。

ホロニアック博士の御研究は、家庭電化製品に広く使用されている発光ダイオードやコンパクト・ディスク・プレーヤーに利用されている半導体レーザーの開発等、多岐にわたっており、人々の生活を豊かにすることに大きな役割を果たしてきました。また、ニプリング博士の御研究の中の大きな業績としては、不妊虫放飼法の確立が挙げられます。私も、かつて沖縄県訪問の折、ウリミ

バエの不妊虫放飼法を見ましたが、この方法により、二年前、沖縄県から、ついにウリミバエを根絶することが出来たことは沖縄県の農業に著しく寄与するものでありました。農薬の人類の健康や環境に対する影響が心配されている今日、悪影響のない害虫管理体系を發展させていくことは誠に意義あることであつたと思います。ここに、両博士の優れた御業績に対し、深く敬意を表します。

科学技術の発達、人類に様々な幸せをもたらしてきました。しかし、一方で、科学技術は、人々の意志如何によって、人類に大きな不幸をもたらすものでもあります。科学技術の研究に携わるすべての関係者は研究の在り方に思いを致し、科学技術の発達が真に人類の平和と繁栄に貢献するよう努めていかなければならないと思います。

今日、科学技術は、世界の多くの、また様々な分野の人々の協力により、国境を越えて目覚ましく進んでおりますが、日本国際賞がその振興に更に資することを願い、式典に寄せる言葉といたします。

## 受賞を祝い優雅に春の宴 両陛下ご臨席のもと祝宴開催

授賞式に引き続き、同日夜、東京・ホテルニューオータニの「芙蓉の間」において天皇皇后両陛下ご臨席のもと、政府代表、在日アメリカ合衆国大使をはじめとする在日外国大使・公使および各界代表約300名を招いて、盛大に祝宴が開催されました。

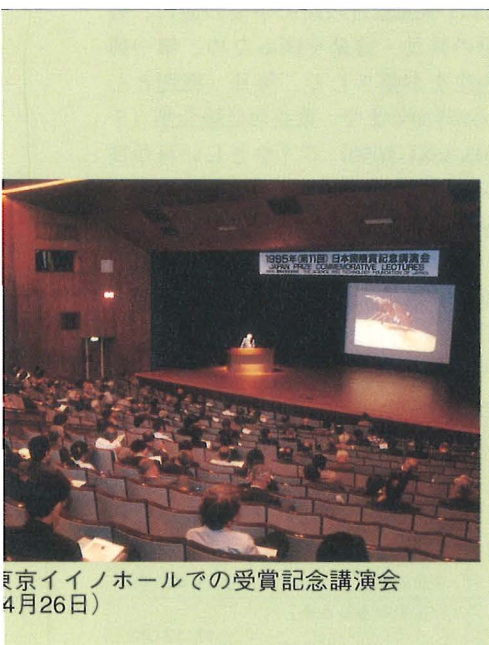
伊藤会長の挨拶で始まった祝宴は正餐の後、受賞者両博士の栄誉を讃えて天皇陛下より乾杯のご発声を賜り、続いて三権の長を代表して草場良八最高裁判所長官から乾杯のご発声をいただきました。また、日本国際賞のますますの発展と世界の平和と繁栄への寄与を祈念して田中眞紀子科学技術庁長

官のご発声による乾杯がお行われたほか、在日外交団を代表してサウディ・アラビア王国特命全権大使ファウズイー・ビン・アブドル・マジード・シヨボクシ閣下による祝辞、さらに受賞者両博士の国を代表して在日アメリカ合衆国特命全権大使ウォルター・モンデル閣下による祝辞が述べられました。

その後受賞者両博士が学ばれた大学のレジンソングやご希望の曲を松下中央合唱団が合唱、和やかな雰囲気が増すなかで、ホロニアック、ニプリングの両博士がそれぞれ謝辞を述べられ、華やかな「春の宴」も終宴となりました。



祝宴風景



東京イイノホールでの受賞記念講演会  
(4月26日)





# JAPAN PRIZE

## ● 京都の休日 ●



授賞式を終えたのち、京都の休日を楽しむ。日本の伝統文化に接してつづる両博士。

## ● 沖縄特別講演ーニプリング博士 ●



ウリミバエ対策は沖縄県や奄美諸島、小笠原諸島で成果があがっています。博士は沖縄県に招かれ、記念講演をされました。

## 1996年(第12回)

### 日本国際賞審査開始

1996年(第12回)日本国際賞の授賞対象分野は「情報、コンピューター、および通信システム」と「神経科学」の2分野です。

すでに世界各国から受賞候補者の推薦状が多数寄せられており、現在、(財)国際科学技術財団に設置された日本国際賞審査委員会によって審査が行われています。受賞者の発表は本年12月、授賞式は来年の4月を予定しています。

#### 「情報、コンピューター、および通信システム」

最近の情報システムは、コンピューターや通信技術の進歩によって、現代社会の営みを支える重要な役割を担っています。

1996年の本賞は、情報・コンピューター・通信に関連する基礎理論、ハードウェア及びソフトウェア、システム技術の進歩発展に対する顕著な業績に与えられます。

#### 「神経科学」

神経科学は、脳神経系の機能とその仕組みを解明すべく近年大きく発展した新しい学際領域であります。

その研究対象は脳神経系の構成要素である神経細胞の活動から、膨大な数の神経細胞により構成される複雑なシステム、更には知情意に関わる人類特有の脳機能までも包含し、分子、細胞、発達、行動、認知機能の各レベルにわたります。

1996年の本賞は、神経科学の新しい研究方法の開発、実験的研究、脳を理解する概念的枠組みの提唱などにおける顕著な功績を対象とします。

## 第一線の先生方がわかりやすく講演 「やさしい科学技術セミナー」毎月開催

(財)国際科学技術財団は日本国際賞の顕彰事業の他に、科学技術に関する知識や思想の普及・啓発を図るため、第一線で活躍されている著名な先生をお招きして、毎月(原則として第4水曜日午後6時30分から8時30分まで)東京の星陵会館(千代田区永田町2-16-2、電話03-3581-5650)で「やさしい科学技術セミナー」を開催しています。

科学技術のさまざまな分野にわたり、タイムリーなテーマを理解しやすく講演していただいています。1995年の年間シリーズ・テーマは「21世紀の科学技術」で12月までの予定は次のとおりです。参加をご希望の方は、電話(03-3432-5951)までお問い合わせください。

| 講師                          | 講演テーマ                       | 開催予定日     |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------|
| 東京大学先端科学技術研究センター教授<br>岡部 洋一 | 「脳は作れるか」                    | 9. 27(水)  |
| 東京大学医学部教授<br>宮下 保司          | 「脳は自分を理解できるか」<br>—21世紀の脳科学— | 10. 25(水) |
| 生命誌研究館副館長<br>中村 桂子          | 「21世紀へ向けての新しい<br>生命の理解」     | 11. 22(水) |
| 東京大学教養学部教授<br>黒田 玲子         | 「化学のおもしろさ」                  | 12. 13(水) |